空きカンに〝善意がいっぱい〟
子どもたちが力を合わせて

大篠小で空きカン募金

善意の缶を開く子ども会のリーダー

ドラエもんのラベルをはった共同募金のカンには、子どもたちの善意がいっぱい――十二月一日、大篠小学校（児童八百七十三人、幾井幸雄校長）で、「空きカン募金」の集計が行われました。

これは、〝社会福祉の心を、子どものときから育てよう〟と、大篠地区子ども会がリーダーシップをとり、社会福祉協議会の呼びかけで行ったものです。

九月末の運動会の時、全校生徒にラベルと缶ジュースを配りました。それから約二カ月間、子どもたちはおこづかいの一部を貯金し、この日集まったカンは、ほとんど一杯になっていました。

昼休みには、各地区の子ども会のリーダーたちが集まり、缶切りやペンチで缶を開けては、バケツにジャラジャラ。ほとんどが硬貨ですが、中には千円札や五百円札も混じり、集計の結果、約十九万円になりました。これは、市社会福祉協議会を通じて、広く福祉事業に役立てられることになっています。

このほか市内では、岡豊小学校でも三年位前から、この「空きカン募金」が行われており、子どもたちの善意の心が大きく広がっています。

手作りの遊び教える
お年寄りが岡豊小で

竹とんぼの作り方を教わる子どもたち

児童数の増加で、増築が進む岡豊小学校（児童数＝三百七十四人、猪野吉保校長）で、授業参観日の十一月二十七日、老人クラブのおじいちゃん、おばあちゃんが一日先生となって、昔から伝わる手作りの遊びを子どもたちに教えました。

これは、老人クラブや社会福祉協議会の協力で、地域ぐるみで子どもたちの教育をバックアップし、また昔の遊びを伝える中で、子どもとお年寄りの触れ合いを持とうと、今回初めて行われたものです。

内容は、竹馬、ぞうり、竹とんぼ、おじゃみ作り、紙しばいやおり紙など、いろいろあり、材料は全て老人クラブのかたが用意したものです。

袋一杯、粒のそろったスス玉を集めて来たおじいちゃんは、「孫たちのために」と、にこやかに答えてくれました。ぞうり作りを教えるおばあちゃんは、「昔は、学校へ行くのもわらぞうりで、四年生ぐらいになったら、自分で作りました。」と、なつかしそうでした。

慣れない手つきで、真剣に取り組む子どもたちの顔、そして生き生きしたおじいちゃん、おばあちゃんの顔。この日はみんなの顔が、とても輝いて見えました。

年末・年始の市役所
証明書などは早めに！

市役所は、十二月二十八日（火）が御用納めです。

新年は、一月四日（火）から仕事を始めます。

戸籍謄抄本、印鑑証明などの各種証明書は、年末・年始の休み期間中は取り扱いませんので、十二月二十八日の午前中までに取りそろえてください。

ただし、出生届、死亡届、婚姻届については、休み期間中でも日直室（庁舎西側入口）で受付けます。

婦人会がチャリティーバザー
清風園と共催で

大篠地区婦人会（吉田綾子会長・会員四百五十人）と土佐清風園（中田善水園長）が共催で十一月三十日、地区公民館でチャリティーバザーが行われました。

出品数も多く盛況だったチャリティーバザー

品物は、婦人会側から引出物などの不用品（ガラス皿、タオルなど）が約三百点と、季節の野菜十数種類。清風園からは、お年寄りの手編みのクッションや座ぶとんなど約百点が出品されていました。

この日は役員さんが、朝早くから値段表をつけたり会場の設営に大忙がし。しかし苦労のかいあって、店開きの正午には近所のご婦人約六十人がつめかけ、市価より安いとあって、あっという間に売り切れてしまいました。

この売り上げ金は、さっそく清風園に寄付され、施設の運営に役立てられることになりました。

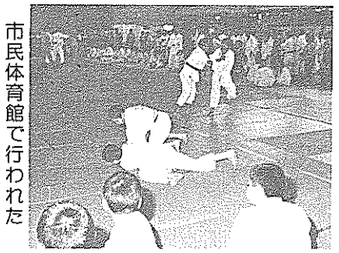
市長が異例の訓示
職員の不祥事件で

去る十二月二日、「職員逮捕」という忌まわしい事件が発生し、南国市に大きな汚点を残しました。

この事態を深刻に受けとめて十二月四日、小笠原市長は係長以上の幹部職員約五十人を大会議室に集め、職員の「綱紀粛正」について、次のような内容の訓示を行いました。

「事件が起きたということは、公務員として大変忌まわしいことだ。これ以上波紋を広げないよう公務員として自覚し、自分の信念を貫いてほしい。部下の監督にも注意をしてほしい。」

市民体育館で行われた県下南国柔道大会
南国道場 3位に入賞



第十五回県下南国柔道大会が十一月十四日、市民体育館で開かれました。

今年の大会は一般八チーム、高校十一チーム、中学十二チーム、小学校十チームがそれぞれ参加、各クラスで熱戦が展開されました。

この中で、小学校クラスで本市の南国道場チームが堂々三位に入賞し、大健闘しました。

残り物には福がある

先日、五十人余りの宴会に出席した。飲むほどに酔うほどに、歌や踊りも加わり、天下は俺様のもといわんばかりに、無礼講の場と化した。やがて大半の人たちが、引きあげたあとには、なみなみとつがれた酒やビールが残り、料理も小皿から皿鉢まで散乱している。

そのうち係のものが見えず、かたづけはじめたが、ビンに残された酒類も、おかまいなしにバケツに投げ込まれ、皿鉢もあわや手にかけられようとしたので、ちょっと後始末にストップをかけ、私は同席の中の二人にも手伝ってもらって、まとめることにした。それがなんと皿鉢三枚分、酒三本、ビール五本となり、あらためて二次会の席を設けることができた。なお残った料理は、折箱に入れて持って帰ってもらった。

毎日県内の酒場で捨てられていく料理や酒類を合わせると、ばく大なものとなるであろう。

最近ビールを好む人が多くなっている。コップをもう少し小さくすれば、経済的であろうと思うが、小さくなればまずくて飲めないという人があると聞く。

宴会の始まるとき、酒類をテーブルに置くのは当然であるが、そのあとは必要に応じて配給してゆけば、かなりの節約ができると思われる。残った料理をそのままにして帰ることが、王者の貴録であるかのように振舞う人もあろうが、世話役は、飲食物の後始末も心づかいをして欲しいものである。

残りものには福がある―という言葉があるが、それは取り残したものに思いがけない拾いものがあるとの意である。残りものを人に与えるときには、気がひけるし、もらう側も馬鹿にされた気がしないでもないが、この諺（ことわざ）を玩味するとき、お互いに気持ちも救われるものと思う。

食料危機が叫ばれているおりから、宴会のあとは、各自が残りものを持って帰る心がけと、料理店も折箱を用意していただきたいものである。

広報委員長　山本尚一

「走り初め」に参加を!!

昭和五十八年の健康と飛躍発展を願って、体育始めの行事として、「走り初め」を行いますので、多数のかたの参加をお願いします。

日時・一月四日、午前九時三十分
集合場所・南国市役所
コース・市役所～日吉神社参拝～後免商店街～電車通りを市役所へ